

市民百景

第2回

女子サッカー 期待の新星
将来はなでしこジャパンに

FC釜石U-15 野崎 凜愛 さん (15)



サッカーのクラブチームFC釜石に所属する甲子中3年の野崎凜愛さんが、昨年8月に広島県で行われた大会に「U-15日本女子代表」として参加した。当市から女子サッカーの日本代表選手が選ばれるのは初めてのことで、選ばれた時の心境を「うれしいと同時にびっくりした」と野崎さんは振り返る。

野崎さんは、国内外の4チームの総当たり戦で行われたこの大会で、全3試合に出場。スターティングメンバーに抜擢された初戦を「緊張もあり、思ったようなプレーができなかった。チームメイトともまだ慣れていなかったの、欲しいところにボールがもらえるようにコミュニケーションを心がけた」と振り返る。そんな反省を踏まえて臨んだ2試合目もスタメンで出場。「緊張もほぐれ、球際の強さで良さが出せた。リズムの良

さが得点につながったと思う」と2得点をあげる活躍でチームの勝利に大きく貢献した。

野崎さんがサッカーを始めたのは3歳の頃。サッカーをやっていた父や2歳上の兄の影響で始めた。「毎日のように兄とサッカーをして、のめり込んでいた」そんなサッカー少女に自らの持ち味を尋ねると「普段から男子チームでやっているの、フィジカルには自信がある。今回の代表選でもその部分は通用したので自信がついた」と語る。10年以上にわたり、同チームを教える大瀧コーチは「男子選手にも負けないくらいフィジカルは強い。足元の技術は、高校でも身につくはず。そうすれば、もっとうまくなる」とさらなる成長に期待をのぞかせる。



4月からは宮城県聖和学園高校に進学する。「テクニクやドリブルなどの技術やパスの質は、代表メンバーを見て差を感じた。一つ一つのプレーを丁寧に行うように心がけ、レベルアップしたい。今はフォワードで出ることが多いが、そこにはこだわらず、スタメンで出ることとを一番に意識していきたい」と高校での意気込みを語る。その先の目標については「技術を磨いて、なでしこジャパンに入る」と力強く誓った。

兄に負けじとボールを追いかけていたサッカー少女は、春から大きな目標に向かって歩みを進める。彼女の挑戦はまだまだ始まったばかりだ。

